

# 広島県



広島県

面積 8,478 平方キロ、人口約 287 万人。自動車産業、造船業のほか、農業や漁業も盛ん。県庁所在地の広島市は、第 2 次世界大戦終結直前に原子爆弾が投下された。当時の惨劇を象徴する原爆ドームは世界文化遺産にも指定されており、国内外から多くの観光客が訪れる。戦後の復興経験を生かし、県や教育委員会、大学、経済団体、NGO などがネットワークをつくらせ、国際協力に取り組んでいる。

授業研究の前に、理科の教員同士で授業のシミュレーションを実施。広島県立教育センターの坂本豊専門家(左から2人目)がアドバイザーとして参加した



養成校の附属小学校で行われた教育実習を視察する藤井浩樹・広島県立広島大学准教授(右から2人目)

## 戦後復興を遂げた都市から

# 世界に平和を届けたい

「広島」といえば、世界の多くの人々が「原爆を経験した都市」をイメージするだろう。

しかし長い年月を経て、広島は「平和を発信する都市」として生まれ変わった。

広島県は今、戦後復興の経験を生かし、同じく復興を目指すカンボジアの支援に取り組んでいる。

## 地域と世界のきずな 第6回



「かずのブロック」を使って勉強する子どもたち

## 広島が取り戻した平和をカンボジアへ

1945年8月6日、世界で初めて原子爆弾が投下された広島。その爆撃により壊滅状態になった都市は、何十年という時を経て、地元の人々のたゆまぬ努力、国内外からの温かい支援により復興を遂げた。そして今、その経験を国際社会に還元するため、さまざまな形で開発途上国を支援している。

その背景にあるのが、広島県が2003年3月に取りまとめた「ひろしま平和貢献構想」。被爆都市である広島が



養成校で算数の指導教官と個別面談をする、広島県教育委員会員・賀茂教育事務所の田中祐二専門家(中央)



2月、ひろしま国際センター・JICA中国主催の「カンボジアスタディツアー」の参加者が養成校を訪問。国際協力・平和貢献を担う人材を育てるため、広島県の復興支援プロジェクトを視察した

担う役割は、平和を「記憶すること」「発信すること」「支援すること」であるとし、県内の関係機関と連携しながら、さまざまなプロジェクトを行っている。

最初の支援国に選ばれたのは、紛争終結国の中でも比較的情勢が安定していて、多様な復興のニーズを抱えているカンボジア。その第一歩として、05〜07年、JICA中国と連携して「カンボジア復興支援プロジェクト(フェーズ1)」を実施。広島県内の教育委員会、大学、保健所、NGOなどから専門家をシエムリアップ州プク郡に派遣し、小学校の校長・教員に対する学校経営や教科指導の研修会、児童の健康診断、栄養調

査、健康教育の指導などを行った。

また、日本の小学校低学年で使用されている算数教材の一つ「かずのブロック」を紹介。現地で反響が大きかったことから、広島県民に不用となった「かずのブロック」の寄付を呼び掛けた結果、1371セットが集まった。これらは、JICAの「世界の笑顔のために」プログラム※1を通じて現地の小学校に贈られ、授業で活用されている。

初等教育の質の向上を

## 教員養成校で

08年からは、フェーズ1の経験をもとに、プロジェクトのフェーズ2をJICA中国

と開始、タケオ州で教育支援を行っている。具体的には、州の小学校教員養成校における理科教育の指導力を強化するため、養成校で行われる授業や、養成校の附属小学校で行われる教育実習の質の改善に取り組んでいる。

まず08年11月と09年2月に現役の指導主事※2や大学教員が現地に赴き、理科の指導教官への個別指導、授業研究の導入、教育実習の巡回指導などを実施した。今年10月には、養成校の指導教官を広島県に招き、研修を行う予定だ。

現地マネージャーを務める広島大学教育学研究科講師・桑山尚司さんは、「これまで、養成校の教官の方々には、授

業研究の習慣がありませんでした。同じ教科の教官同士が、授業づくりについて相談し合う機会を設ける。そして、授業研究の後に評議会を開き、良かった点や改善点などを話し合うという、一連の流れを定着させていきたい」と話す。教育実習に関しては、担当教官による授業案の確認、事前・事後の指導がほとんどなのが現状。そこで、授業後の休み時間などを利用して指導や、午後の空き時間に養成校の空き教室を開放して、共同で授業の準備と振り返りができるように提案した。

「単に、授業の技術」を伝えるだけではなく、教員が互いに学び合う「学校文化」を良いものだと実感してもらい、プロジェクト終了後も組織的に継続されるような仕組みをつくりたい」と桑山さんは強調する。

広島県総務局国際課でプロジェクトを担当する大西明宏さんは、「カンボジアの支援を通じて学ぶことも多い。その経験を県民に還元し、私たち自身も成長できれば」と展望を述べる。広島県民の平和への思いが、カンボジアの平和を創り出す種となり、現地で花開きつつある。

※1 JICA が派遣中のボランティアを通じ、途上国が必要とされている物品を世界各地へ届けるプログラム。詳細は JICA ホームページ (<http://www.jica.go.jp/partner/smile/>) へ。  
 ※2 都道府県、市町村の教育委員会に置かれる専門職員。学校運営に関する指導や助言などを行う。

